



講座	日時・場所	費用・その他	申込み
歴史	明科歴史探訪講座 大逆事件の26人 第3回 大逆事件で起訴され、有罪となった26人それぞれの人物像や生涯について解説します。 講者 大澤慶哲さん(給然寺住職)	費用無料	申込不要 明科公民館 TEL62-4605
	ふるさと探訪講座④ 安曇野道祖神散歩 シリーズ6回目の今回は、穂高地域の道祖神を巡ります。 講者 窪田雅之さん(松本市立文書館)	費用200円 定員15人(先着順) 随飲み物	申込3月6日(月)・7日(火)に電話で 豊科公民館 TEL72-2158
	雑誌「信濃不二」から掘金を探る 明治末期から昭和初期に刊行された雑誌「信濃不二」。そこに掲載された記事から、当時の掘金の様子を探ります。 講者 青木弥保(市職員)	費用無料 定員60人(先着順) 他「掘金を楽しむ会」との共同開催	申込不要 堀金公民館 TEL72-5796
生活	季節の料理教室 やししょうま作り 郷土の伝統料理・やししょうま作りの技を学びます。 講者 寺口芳子さん、Vif 穂高の皆さん	費用1,200円 定員12人(先着順) 随エプロン、三角巾、マスク、包丁	申込3月2日(木)・3日(金)に電話で 穂高公民館 TEL82-5970
	暮らしの知恵講座 春の寄せ植え 日々の暮らしを豊かに彩る寄せ植えを作ります。 講者 佐川正樹さん(暮らしを彩るクラフトと花たち「カレン」)	費用1,200円 定員15人(先着順) 随軍手、移植ごて	申込3月8日(水)から10日(金)に電話で 豊科公民館 TEL72-2158
芸能・レクリエーション	教養講座 三郷寄席 笑門には福来る。みんなで笑って過ごしませんか。演目は当日までのお楽しみ。 出演 まつかわ落語会「風まんだら」の皆さん	費用無料 定員50人(当日先着順)	申込不要 三郷公民館 TEL77-2109
	春休み将棋教室 子どもから大人まで、初心者から上級者まで楽しめる教室です。1日だけ参加もできます。 講者 安曇野市囲碁・将棋実行委員会の皆さん	費用無料 定なし	申込3月13日(月)・14日(火)に電話で 明科公民館 TEL62-4605
	明科いいまちサロン3月例会 早春コンサート 春の訪れを感じながら、フルートとピアノのしらべをお楽しみください。 演奏 藤木めぐみさん(フルート)、石井久美子さん(ピアノ) 曲目 英雄ポロネーズ(ピアノソロ)、花は咲く ほか	費用300円	申込不要 明科公民館 TEL62-4605

ひまわりクラブ会員の募集



さまざまな遊びや体験を通して親子の絆を深めたり、仲間と交流したりするひまわりクラブの参加者を募集します。班ごとに決める活動を週1回行うほか、全体で行うクリスマス会などの行事もあります。

令和5年4月～令和6年3月
事前説明会 3月10日(金)10:00～
入講式 4月14日(金)10:00～
場 三郷公民館 ほか
対象 入園前の幼児(満1歳以上)と保護者
費用 子ども1人年額1,000円
申込 4月10日(月)までに申込用紙を三郷公民館へ提出。
申込用紙は三郷公民館・市HPから入手できます。
場 三郷公民館 TEL 77-2109



安曇野あかしな農産物加工交流ひろば「えべや」の催し

料理教室 りんごおこわと白和え
3月5日(日)・22日(水)
午前10時～正午
体験教室 みそ作り体験(3kg)
3月25日(土) 午前10時～正午
■共通事項
場 えべや 講 えべやスタッフ
費 1500円 定各10人(先着順)
特 エプロンなど
2月28日(火)から「えべや」へ電話で(TEL88・6275 受付は月曜日を除く午前10時から正午。キャンセルは2日前まで)
他 子ども同伴での参加も可
講 農政課
TEL71・2430



日本語教室ボランティアきっかけ講座

外国籍の皆さんを対象に市内4カ所で開催している日本語教室。そのボランティアに携わるきっかけを作る、初心者向けの講座を行います。
3月8日(水)・15日(水)
午後7時～8時30分
場 安曇野市役所3階会議室301
第1回…日本語教室ってどんなところ？
第2回…日本語ってどんなことば？

町民活動セミナー

助成金の考え方や申請するうえで必要なことを学びます。また、令和5年度つながりひろがる地域づくり事業補助金の説明会も併せて行います。
3月18日(土)
午後1時30分～3時30分
場 安曇野市役所4階大会議室
演題 助成金にチャレンジ!
講 NPO法人えんのか
費 無料 定30人(先着順)
3月15日(水)までにながの電子申請サービスまたは電話で
場 市民活動サポートセンター
TEL71・2013



小説『安曇野』の登場人物を知ろう!

安曇野の名を全国に広め、作者の臼井吉見が邂逅(かいこう)と対話をテーマに、1000人を超える実在の人物が登場する長編小説『安曇野』。本号から、小説に登場する主要な人物を紹介していきます。

第1回



相馬 良

「アンビシヤス・ガール」「黒光」「新宿中村屋の女主人」…。『安曇野』に最多登場の相馬良は、その性格や人柄から呼び名がいくつもあります。1875年、旧仙台藩士の家に生まれた良は、没落した士族の末裔として貧しい生活を余儀なくされました。それでも、強い向上心を持つて生きる様から「アンビシヤス・ガール」と呼ばれるように。また、文学に興味を持ち、明治女学校に進み、2代目校長の巖本善治からは「溢れる才気を少し黒で隠しなさい」との意味から「黒光」の号をもらい受けました。同校卒業後に相馬愛蔵と結婚し、22歳の頃に愛蔵の故郷・穂高へ移住し

ました。しかし、慣れない生活に体調を崩して上京。当時まだ目新しかったパンに目を付け、愛蔵とパン屋「中村屋」を創業しました。新宿に支店を開いて以降、穂高出身の彫刻家・荻原守衛(碌山)ら芸術家が集うようになり、「中村屋サロン」の中心人物に。サロンで若い芸術家らを支援したり、インド独立を志すラス・ビハリ・ボースを保護したりした優しさの背景には、苦しかった自身の幼少期が影響しているとも考えられています。

邂逅と対話の安曇野紀行「穂高の万水川」

「絵がお好きなのですね。いつも、こうして描いてらっしゃるの?」「忙しくて駄目さ。冬はひまにやなるが、寒くなっちゃって…」
(小説『安曇野』第一部 その三より引用)



小説内で、良は穂高に移住後、万水川の近くで水彩画をしていた荻原守衛と出会います。守衛は、良から文学や芸術の知識を吸収し、良が持ってきた油絵を見て芸術家を志すようになったといひます。